

祖父江文宏さん追悼号



CAPNA理事長で、児童養護施設暁学園園長の祖父江文宏さんは6月1日夜、間質性肺炎のため、死去いたしました。享年62歳でした。

同月7日に平安会館今池会場で開かれた「お別れの会」には1,000人もの方々にご参列いただきました。CAPNA監事の川上弁護士の弔辞(2,3面に全文掲載)に続き、暁学園の卒業生らが祖父江さんの霊に、追悼と感謝の言葉をささげました。

22日にナディアパークホールで行いました「追悼ステージ」には、親友の自然音演奏家高野昌昭さん(写真上)ら多くの仲間が参加。大阪大学助教授の西澤哲さんは、祖父江さんと共に語り合ってきた「虐待被害者の救済、子どものケア」について熱弁をふるいました。CAPNA劇団による祖父江さんの詩の朗読もありました。

祖父江さんを失った悲しみは、消えることはありません。でも、私たちは、その悲しみを乗り越え、子どもたちの虐待防止のために歩んでいかねばなりません。

6月13日の理事会において、岩城正光・新理事長、白石淑江事務局長、兼田智彦専務理事(事務局次長)の新体制がスタートいたしました。今後とも、CAPNAをよろしくお願い申し上げます。

Vol. 24

松明を受け継いで...

理事長 岩城 正光



CAPNAの活動を通じて、私たちは司法や行政のありようが、市民の視点からずれていることを感じてきました。子どもや女性、高齢者、障害者といった社会的な援助を必要とする立場の人たちが、切り捨てられたり、怒りの声が届かなかったり、怒りの声さえ出せないような現状でした。

「われひとり救われることを由とせず」という祖父江文宏さんの訴えこそ、われわれCAPNAの魂にしていかなければなりません。祖父江さんのような立派な生き方は僕には到底真似できません。でも、彼の魂だけはしっかりと受け継いでいきます。

児童虐待防止法の改正作業が緊急課題になっていますが、司法の分野が一番立ち遅れています。家族内病理や社会福祉の問題について、司法はどうあるべきなのか、治療的な判断、福祉的な援助を司法の中にどう取り込んでいけるのか。これからの私自身の課題です。

第二期のCAPNAに吹く風は?

事務局長 白石淑江

祖父江さんと最期のお別れをした私たちは、しばらく、深い喪失感に陥っていました。強い求心力を失ったCAPNAは、一体どうなるのだろうか?そんな不安がよぎりました。けれども、悲しみのどん底にありながら、CAPNAという組織は平常の業務を淡々とこなし、その上にお別れの会、ラスト・ステージと、成すべき大事を次々に遂げて行きました。

それは「先生と呼び合うのを止めよう」と提案した祖父江さんが、思い描いて来た市民団体の姿だったように思います。

この度、微力な私が大役をお引き受けしたのは、事務局が多数のボランティアで支えられているからにほかなりません。「小さい人の笑顔のために」それぞれのスタンスでできることをして行こう。そんな気軽さでお引き受けしました。

さて、第二期のCAPNAには、どんな風が吹くのでしょうか?今は、どんな風が吹こうとも皆一緒だから怖くない、そんな心境です。皆さま、どうぞ宜しくお願いします。

子どもたちの笑顔のために

専務理事 兼田智彦

CAPNAに関わって7年。ずっと研修と総務の仕事をしています。

市民団体としてのNPOを運営するノウハウは誰も持っていないので、試行錯誤の連続です。

仕事自体は企業と同じで、人・モノ・カネを効率的に使ってCAPNAの目的を達成することです。しかし、企業と違うことは、働いている人のほとんどは無給のボランティアであり、予算のほとんどは会費と寄付に頼っており、利潤を求めない大原則があることです。

しかし、この7年間でCAPNAは予想以上の発展をし、成果も上げることができました。これからは、さらに市民団体としての強みを生かして、子どもたちの笑顔のために活動を展開する必要があります。そのためには、常に新しい人材と新しい発想が必要だと思っています。

【団体】花谷法律事務所、(株)ニッショー、名古屋名南ロータリークラブ、名古屋昭和ロータリークラブ、子どもの虐待防止センター・なう、名古屋弁護士会理事一同、西濃地域福祉事務所、揖斐郡社会福祉協議会、(社団法人)愛知県看護協会

3
6
月
寄
付

【個人】前田元弘、加藤玲子、金山秀吉、萬屋育子、吉田由美、服部恵子、稲生みち子、向山富雄、奥野幸代、服部高子、的場定美、太田貴代美、長崎清、山田裕子、嶋康子、稲子宣子、井上薫、矢満田篤二、中村詩子、西山仁ほか匿名の10人の皆様(敬称略、順不同)

CAPNAニュースレター24号 (隔月刊7号)

2002年7月30日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

ホームページ <http://www.2ocn.ne.jp/~capna/>



感動を呼んだ西澤哲さんの講演（22日）



祭壇は花でいっぱい。「ありがとう、どの笑顔もすてきな笑顔」の書も（7日）



芳原洋一さんの笛は、悲しみの音色（7日）



CAPNA劇団の詩の朗読（22日）

祖父江さん、ありがとう・・・しばしのお別れです

弔辞

川上 明彦

私は、今、便箋に書き記した弔辞を読み始めました。私は、今日ばかりはこの便箋を読ませてもらいます。これなしには、私は、あなたに対する思いと感謝の高ぶりから、涙が出て、途中で絶句し、弔辞が弔辞にならないと思うからです。

私は、あなたにお別れの言葉をささげます。でも、「さようなら」とは決していいません。私は、死とは、無ではなく、目覚めない長い眠りであり、気持ちのあう者同士は夢の中で再び会えると思っています。私は、あなたに夢の中で会えると思うし、また、どうしても会いたい。

今日は、あなたが愛した人たちが、あなたを慕う人たちが、こんなにいっぱいお別れの会に来て来てくれています。あなたを頑張らせ、あなたが最後まで会いたがっていた子どもたち。そう、あなたは子どものことを、尊敬と対等性を込めて小さい人と言いつづけてきましたね。その小さい人たちも一杯ですよ。わんぱく坊主のあなたを慕ってくださった地元の方々も、そして、わんぱく坊主のあなたに泣かされたであろう人も。

あなたは、覚えていますか。あなたの肩書きがいくつあるか私と一緒に数えたことを。暁学園施設長、俳優、演出家、脚本家、声優、詩人、童話作家、大学の講師、CAPNA代表など、全部で13あったことを。

今日は、あなたは、一切声も出さず、一切の動作もすることなく遺影だけで演じる舞台俳優であり、まさにラストステージの主演であり、演出家です。あなたは、この演出のために「死後について」と生前書き残し、葬儀、通夜・密葬の配役、衣装、お経の種類、祭壇の体裁、そして、なんとひつぎを担ぐ人まで決めていきました。この「お別れの会」も、司会、弔辞を読む人、音楽まで指定し、その進行まで書いた「せりふだけない」台本を残して行きました。

なんとあなたは、わがままでおちゃめな人なのでしょう。人の都合は全く無視して。私にはCAPNAとしての弔辞を述べる役を与えていきました。しかし、あなたのわがままさも、私も含め誰ひとりやだと思わせないところが、あなたの人柄であり、そのわがままを言われて喜ぶのは私だけではありません。

今日、あなたのこの舞台のために、あなたの愛した家族の方々はもちろん、多くの人達が支えようと一所懸命でした。あなたの心の友である高野さんも秋吉さんも。岩城さんは、あなたのわがままに従順にひつぎをかつぎ、今、司会をしているだけでなく、今日のために、ぬいぐるみのような体の汗を拭き拭き、いつものとおり必死に動き回っていました。この参列者にお配りした、この素敵な冊子を見てください。限られた時間の中で、安藤さん、悦ちゃんが精魂込めて作ってくれたものですよ。もう、これを見るだけで、あなたの経歴と足跡がよくわかるでしょう。白石さんも上野さんも矢満田さんも山田さんも田島さんも、みんなみんなCAPNAの誰もが、あなたの舞台を支えようと頑張ってくれているのです。あなたは、幸せ者です。

私は、あなたの台本を読み込みました。そこには、あなたの形にこだわらず、ひとりひとりの心を大切にしようとする「やさしさ」と「おちゃめさ」と、そして「真剣さ」がありました。あなたの心を支え変えた「小さい人」には、お骨拾いまで見せることによって、人の生きること、死ぬことが何かを感じてもらおうとしました。そして、古い因習と体裁だけの事務的なものへは断固として、死んでもこれを拒み、清楚に、その自由な精神の大事さと豊かさを高らかにあなたは謳っているのです。まことにあなたらしい。

私があなたに初めて会ったのは、CAPNA創設の切っ掛けとなった平成6年の性的虐待の親権剥奪事件で、あなたはその後見人に裁判所から選ばれた時でした。当時、児童虐待問題に対して、まだまだ社会的意識も取り組みも、夜明け前であり、その事件も全国で2番目という状態でした。この事件がきっかけとなり、岩城弁護士が児童虐待防止に開眼し、矢満田さんが強く希望していたその組織作りにも動き出し、そして、あなたの「小さい人」を一人

でも悲しませてはならない」という熱き思いが、CAPNA創設の原動力となり、仲間が仲間を呼び、平成7年10月にCAPNAが設立されたのです。

このCAPNAは、現在では、700名を超す、小さい人を救いたいと願う人たちのボランティアによる手作りの、官主導でない組織としては、他に類を見ないほどの強力な組織として成長し続けています。

あなたは、代表として、小さい人を心から思う真摯さ、明るさ、誰をも包み込む人柄、飾らない率直さ、公平さ、そして、比類のない行動力をもって皆を包み込みました。そして、あなたは「いい男」「かっこよかった」。あなたの愛した奥さんの美智子さんもそう言っていますよ。CAPNAには、「先生」はいません。誰もが「さん」づけであり、CAPNAに関わる誰もが対等であり「やりがい」と「居場所」を感じられる、支配関係のない組織であることは、あなたの人柄に負うところが大きかったのです。

しかし、そんなあなたは、怒りの人でもありました。小さい人を真に守ろうとしない、体裁だけ取り繕った、形だけの行政に対しては、「鬼」と化して、激しい怒りをストレートにぶつけ続けてきました。それは、私に言わせれば、それだけあなたは行政に期待し、小さい人を救ってやってほしいと心から願っていた裏返しなのです。児童養護施設の待遇に対する行政の取り組みも同じ思いだったのでしょう。もっとも、小さい人のために必死に「薬も人手もない野戦病院」と化した行政の現場で働く方々に対するあなたの率直な畏敬と感謝の気持ちが、いかに大きかったかを私も知っています。

あなたは、天国に行っても地獄に行っても、どちらでもやっていけます。その行動力、精神の豊かさ、不屈の魂、そして、思いやり。あなたは、その存在感を発揮して、そこでも、小さい人一人一人を守るために、素敵な鬼となっているでしょう。

私には、にごやかで心やさしい鬼の姿が目に見えかけます。祖父江園長すけの鬼の角の数は、1本にしますが、それとも2本にしますが、あなたが、小さい人を守るための天国の鬼として恥ずかしくないように、CAPNAのみんなで、トラの皮のパンツと温

かいみんなの心を個別に贈ることにします。大事に使ってくださいね。

CAPNAは、岩城さんをはじめとした仲間、あなたの遺した志を心の支えとしながら、更に進化させていきます。あなたの構想したように、将来的には、CAPNA岡崎、CAPNA豊橋、CAPNA半田、CAPNA一宮という各地域における更なる発展を目指すことになるでしょう。また、児童相談所を中心とする行政とは、相互の尊重と信頼と尊敬を基本とし、かつ、快い緊張も忘れることのない連携を深めることも重視していくでしょう。CAPNA弁護団も、その快い緊張も含めCAPNAを応援します。

CAPNAは、小さい人を守るため児童相談所等が、その人的物的施設を充実させようとする時の応援もするでしょう。そして、あなたが、最後まで心残りとなっていた児童養護施設に対する支援の強化を求めるために多方面から頑張ってください。

そして、子どもの虐待防止に関するネットワークの真なる構築とは、その「ネットワーク」の単なる言葉としての心地よさに酔うことのない実質的な中身だと胆に命じてやっていきます。

私は、ここで「どうか、それを天国から見守ってください」とはあなたには言いません。どうぞ、けちなことは言わず天国からCAPNAへお来し下さい。あなたが、皆をいつでもにごやかに熱烈歓迎してくださいように、私たちは、いつでも熱烈歓迎します。お待ちしています。

小さい人を守るのには、暴力ではなく愛であり、夢であること。「夢は歴史を造る」。これはあなたの言葉です。

もう、これ以上、私が演じ続けるとあなたの目指した演出に支障が出そうですので、このあたりとします。

ただ、最後にひとこと言わせてください。あなたは、天国に旅立つ前にしゃべれない状態で「みなさん、ありがとう」と指文字を書かれていきました。私たちが、祖父江さん、あなたにいわせてください。「本当にありがとうございました。祖父江さん、ありがとう」。しばしのお別れです。

(CAPNA監事・CAPNA弁護団事務局長)